

超宗派の対応必要 寺院の保険料負担増で

(1面からのつぎ)

共立の岡田亮氏は火災保険料上昇の流れは今後とも止まらないとの見通しの上で、保険の見直しに際して第一に最低3社以上から見積もりを取る必要性を指摘する。「複数

の保険会社に乗り合っている保険代理店に相談するのがベター。外資系損保は引き受けが厳しいケースがある」とした上で「見積もり際には(その寺で)台風等の対策をどのように取っているのかを事前に説明することがマストになる」と強調した。

また「保険会社は過去5年間の通算損害率(保険料÷支払保険金)が60%以内であれば収支が見合うため、過去5年間の支払保険金のリストを提出すると交渉しやすい」という。

保険の契約期間については可能であれば最長の5年間から交渉するべきだが、「現在の状況を考えると複数年契約ができただけでラッキーと考

えるべきだ。

このほか「寺院の火災保険は保険金額の評価をしっかり行う必要があり、そうしなければ事故の際に満額支払われない可能性がある」とし、「看板などの屋外構造物が保険の目的に含まれていないのか確認することも必要。実は保険の対象外で、後でトラブルになるケースもある」と注意を促した。

保険代理店「ヤン」(兵庫県姫路市)代表取締役の山田勝正氏も「今後も火災保険料の上昇傾向は続くだろう」との認識を示し、「保険料が上がれば、今まで加入していた者も保険契約できなくなり、加入者が減る。そうすると、負担する契約者の頭数が減り、さら

**お葬式
家族葬**

公益社

ブライトホール

0120-004-200

公益社 京都

に保険料が上がるといって悪循環に陥る。そうなら

ば火災保険制度そのものの継続が危ぶまれる」と懸念する。

その上で「大きな宗派や教団は団体割引で保険加入、共済制度を整えているところもあるが、小さな宗派はそこまで手が回っていない。一つの寺院でできることは少ないが、宗派を超え地域仏教会などでの結束が必要。地域が寺院という心の拠り所を失うことのないよう、必要な方向転換が求められている」と超宗派での取り組みを提言した。

抄骨 涙

技師は業を終えて帰らんとする時、恭しく合掌して輪転機を拜んで感謝の祈りを捧げる。それでこそ機に魂が入っているのだ。神動の妙用はそこから生まれる。

